

# 自転車

日本国内において、早い時期から堺では自転車にまつわる産業が興(おこ)り、現在でも自転車のまちとして発展を続けています。堺に自転車産業が生まれ、根付いてきた歴史をさかのぼってみましょう。

## 古墳時代(3世紀～)

ユネスコの世界遺産に登録されている百舌鳥(もず)・古市古墳群。それらの古墳の造営(ぞうえい)にあたっては、当時の最新技術が用いられました。その中には、鋤(すき)や鍬(くわ)など鉄製農耕具も含まれ、鉄器づくりの技術向上が巨大古墳の築造(ちくぞう)に大きく寄与しました。そんな技術が脈々と連なり、現在の自転車産業につながっていきます。



仁徳天皇陵古墳:写真提供:堺市

## 奈良・平安時代(710年～)

平安時代後期には、河内鑄物師(かわちいもじ)と呼ばれる金属鑄造(ちゅうぞう)の技術者が活躍を始めたといわれます。各地の梵鐘(ぼんしょう)や大仏鑄造から鍋釜、鋤、鍬などの日用品まで幅広い金属製品を手掛けていました。

## 室町時代(1336年～)

### 応仁・文明の乱(1467～1477年)

応仁の乱で、京都が戦場になり都市機能を失いました。また、それまで遣明船(けんみんせん)の発着港であった兵庫津が西軍に占領されたため、堺津(さかいづ)が遣明船の発着港となり、国際貿易の起点になったのです。その後、南蛮貿易(なんばんぼうえぎ)により、様々な商品が取引され各種産業が堺を中心に発展してゆくことになります。

貿易による原材料の獲得、自由都市ゆえの製品の流通・販売ネットワークの充実、新技術の導入などを背景に、多数の鑄物師や鍛冶(かじ)が集まるようになり、堺では金属産業が盛んに行われました。



南蛮屏風(左隻):写真提供:堺市博物館

### 鉄砲伝来(1543年)

ポルトガル人が鹿児島島の種子島に鉄砲を伝えました。これにより、戦国時代の戦法に大きな変化をもたらし、以降の歴史を転換させる要素に。また、堺は近江の国友と並ぶ鉄砲生産の一大拠点となりました。このことが、堺の鑄造や鍛造(たんぞう)をより深化させることになりました。

## 安土桃山時代(1573年～)

堺の商人、橘屋又三郎(たちばなやまたさぶろう)が種子島に滞在し、鉄砲の作り方を学んで堺に伝え、分業での製造を手掛けます。その後、戦国時代の堺の豪商・今井宗久(いまいそうきゅう)は、織田信長の後ろ盾を得て職人を組織し、鉄砲の大量生産を始めました。



堺鉄砲銘「摂州住板並屋伊兵衛作」:写真提供 堺市博物館

## 江戸時代(1603年～)

天下統一が実現し戦がなくなったことで、鉄砲鍛冶の仕事が減少します。このころから、鉄砲づくりの職人が職を求めて、「包丁」「鋸(のこぎり)」「釘」「針金」「剃刀(かみそり)」「大工道具」などの鍛造品の生産に携わるようになったといわれます。

## 明治中～後期

時代は明治に入り、いよいよ自転車が日本にも入ってくるようになりました。堺では、1900年ごろに北川清吉(きたがわせいきち)という人物がアメリカ製の自転車を使った時間貸しを始めたといわれています。鉄砲鍛冶の流れを汲む鍛冶屋がその自転車の修理を手掛け、そこから堺の自転車産業が産声をあげるようになりました。



クリーブランド(アメリカ):写真提供/シマノ自転車博物館

## 大正

第一次世界大戦(1914～1918年)により自転車の輸入が途絶えてしまいます。それを機に、自転車製造を専業とする業者が増加、大正5年(1916)には堺輪業購買組合が設立され、堺の自転車産業が確立しました。



日本製ラージ号:写真提供/シマノ自転車博物館

## 昭和初期

堺の自転車産業は隆盛期を迎え、昭和7年(1932)には自転車関連製造業者が248社あったという記録が残っています。しかし、忍び寄る戦争の影響による国家総動員法が強化されたことにより資材も制限され、産業としては衰退してしまいます。

## 昭和中期

昭和30年ごろのサイクリングブーム、昭和40年代のニュータウン建設のムーブメントを経て、自転車産業が復活を遂げました。



昭和30～40年代には子ども向けのスポーツタイプも大流行した  
:写真提供/(一財)自転車文化センター

## 現在

海外からの完成品輸入の増加などの逆風を受けつつも、高付加価値製品や電動自転車等の新しい技術を生かした製品を提供しています。また、自転車レースの国内最高峰とされる「ツアー・オブ・ジャパン」の堺ステージが開催されるほか、観光や日常の移動に快適・便利な電動アシスト自転車を使用したシェアサイクルが普及するなど、堺市民にとって自転車は身近な存在であり続けています。



「ツアー・オブ・ジャパン」堺ステージ:写真提供/堺市



2022年5月にリニューアルしたシマノ自転車博物館  
:写真提供/シマノ自転車博物館

### ※参考文献

「堺一もの・ひと・こと」  
編集/発行:堺市博物館

「自転車のまち 堺のあゆみ」  
発行:堺自転車環境共生まちづくり企画運営委員会